

【事業名】国内希少野生動植物種シャープゲンゴロウモドキおよびマルコガタノゲンゴロウの生息状況解明および保全対策
(北陸地方、東北地方など) 【団体名】千葉シャープゲンゴロウモドキ保全研究会

平成30年度 生物多様性
保全推進支援事業
様式2

事業の背景・目的

中～大型のゲンゴロウ類であるマルコガタノゲンゴロウ、シャープゲンゴロウモドキは高次の捕食者であり、里山の水辺環境の指標種として重要である。両種についての生息状況調査は、平成23年度の国内希少野生動植物種への指定以後、継続的に実施されてきた。しかし、侵略的外来種の侵入などによる生息の危機が続いており、一部の情報不足の場所を含め、最新の生息状況を把握することは保全上重要である。また、一部の生息地では埋め立てや侵略的外来種アメリカザリガニの侵入、採集圧に対する早急な対策が必要である。そのため、地域とともに協働による保全対策を実施し、今後の持続可能な保全策につなげることを目的とする。

事業の内容

シャープゲンゴロウモドキ、マルコガタノゲンゴロウの分布調査、侵略的外来種対策、地域連携による生息地保全事業を開始し、問題点を把握することにより、問題解決への道筋をつける。3年間の事業を通じ、今後の持続可能な保全を地域主体で実施する体制を構築する。

平成30年度			平成31年～32年度
事業① 生息状況調査事業 ・東北地方を主とする全国的な生息状況調査を開始する。	事業② 外来種対策事業 ・東北地方、北陸地方におけるアメリカザリガニ防除を開始する。	事業③ 地域連携による生息地保全事業 ・北陸地方、東北地方などの生息地における保全活動を開始する。	事業①生息状況調査事業 事業② 外来種対策事業 事業③ 地域連携による生息地保全事業 ・分布調査、外来種対策、地域連携による生息地保全事業を継続するとともに、結果をまとめ、今後の持続可能な保全につなげる。

期待される成果

シャープゲンゴロウモドキ、マルコガタノゲンゴロウは、いずれも農村地域の水辺生態系のシンボルとして、トキやコウノトリと同様に保全上重要である。これらを保全し、地域に啓発することにより、地域の理解にもとづく、今後の持続的な農村の水辺環境の保全が期待される。本事業により、両種の最新の生息状況が明らかになることを通じ、今後の全国にわたる効果的な保全策を検討しうる。また、喫緊の保全上の課題に対し、効果的な対策を開始し、地域と連携することにより、今後の持続可能な保全を地域主体で実施する体制を構築する。